

第三次東松山市地域福祉計画 の進捗・評価について

令和7年11月27日（木）10：00～12：00

令和7年度第2回

東松山市地域福祉計画・東松山市地域福祉活動計画策定委員会合同会議

東松山市社会福祉課

第二次地域福祉計画の評価方法

- ①進捗管理事業ごとに担当課が割り振られている。
- ②進捗管理事業の単位で、次の 5 項目を記載。
 - ・事業内容
 - ・年度当初の計画 (Plan)
 - ・実施内容 (Do)
 - ・評価 (Check)
 - ・今後の取組 (Action)
- ③全体ではA3版で16ページ。※このほか概要版あり
- ④年度内に 1 回実施。

第二次地域福祉計画の評価方法の課題

- ①定量的な評価が中心で、目指す姿に進んでいるか
わかりにくい。数字も大事だが、どのような変化
が生まれたのかを確認したい。
- ②資料の分量が多いため、全体像が見えにくく、焦
点も合わせにくい。
- ③計画策定時からの既存事業が多く、具体的な反面、
新たな課題に対する取組がわかりにくい。
- ④年に1回の評価では少ない。

第三次地域福祉計画の評価方法案（1/4）

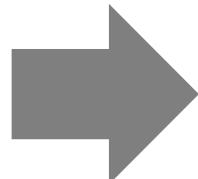
第5章 計画の推進体制（抜粋・要約）

- ①評価を年に**2回**行う。
- ②関係課所等による進捗状況の確認は、**対面による意見交換を基本**とし、進捗状況の確認と合わせ、施策の**方向性の確認**と認識の一致を図る。
- ③福祉に関する事業の特性から、**定量的な評価**だけではなく、**質的な変化**を捉える**定性的な評価**を併せて行い、取組の見える化を図る。

第三次地域福祉計画の評価方法案（2/4）

①次のような内容を記載する「ロジックモデル」を活用してはどうか。

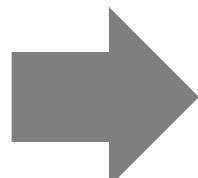
- ・仮説（現状、課題、真因）
- ・インプット（誰に）
- ・アクティビティ（どう働きかけるか）**内容**
- ・アウトプット（実施結果）**定量**
- ・アウトカム（相手はどう変化するか）**定性**
- ・インパクト（ありたい姿）**目指す姿**



●目指す姿を念頭に、定量・定性両面から評価 4

第三次地域福祉計画の評価方法案（3/4）

- ②ロジックモデルは、**関係課が集まって話し合いながら作成**することとしてはどうか。
- ③ロジックモデルは**基本目標の単位**で作成し、原則、**1回の会議**につき**2つの基本目標**を扱うのはどうか。



- インパクト（ありたい姿）が明記されているため、話し合いにより関係課の中で施策の方向性の確認と認識の一致が図られる。
- 基本目標単位で全体像を把握するとともに、焦点を絞って議論を行い、全ての基本目標を1年かけて評価していく（イメージは次頁参照）

第三次地域福祉計画の評価方法案（4/4）

【③の補足】※例示。順不同になる場合あり。

令和 8 年度 1 回目	基本目標 1 ・ 基本目標 2 }
令和 8 年度 2 回目	基本目標 3 ・ 基本目標 4 }
令和 9 年度 1 回目	基本目標 1 ・ 基本目標 2 }
令和 9 年度 2 回目	基本目標 3 ・ 基本目標 4 }
令和 10 年度 1 回目	基本目標 1 ・ 基本目標 2 }
令和 10 年度 2 回目	基本目標 3 ・ 基本目標 4 }
令和 11 年度 1 回目	基本目標 1 ・ 基本目標 2 }
令和 11 年度 2 回目	基本目標 3 ・ 基本目標 4 }
令和 12 年度 1 回目	まとめ（市民アンケートで検証）

まとめ

- ①評価シートはロジックモデルを使用し、定量的評価と定性的評価の両方を行うのはどうか。
- ②ロジックモデルは、関係課の話し合いにより作成する方法としてはどうか。
- ③作成するロジックモデルの単位は、基本目標ごとにしてはどうか。
- ④策定委員会で御議論いただくのは、1つの会議につき2つの基本目標に絞ってはどうか。